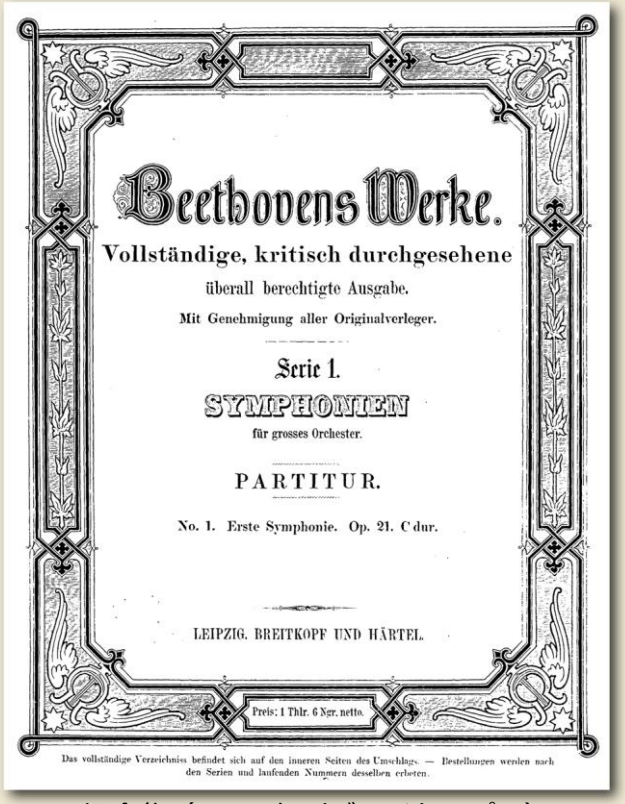
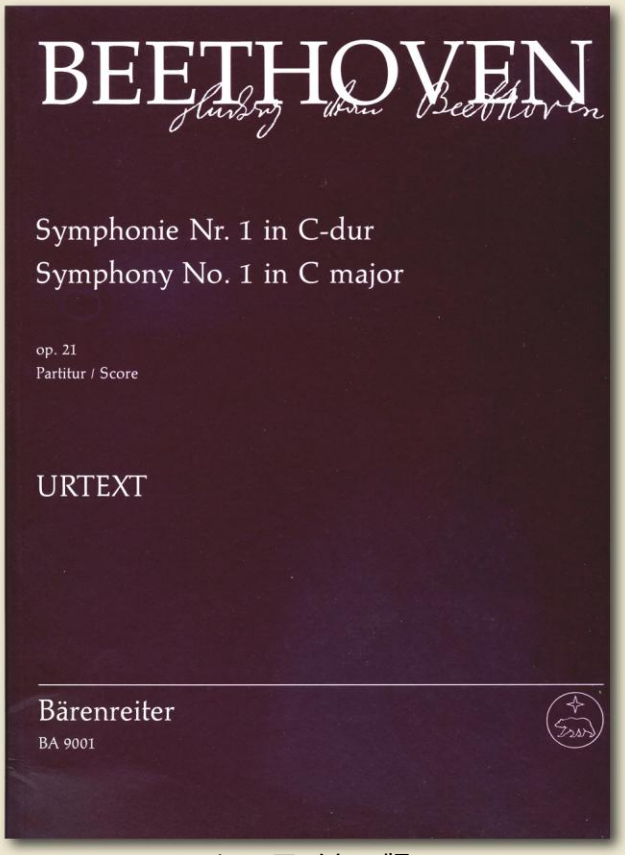
ジュラシック・トーク

ベートーヴェン／交響曲第１番の原典版

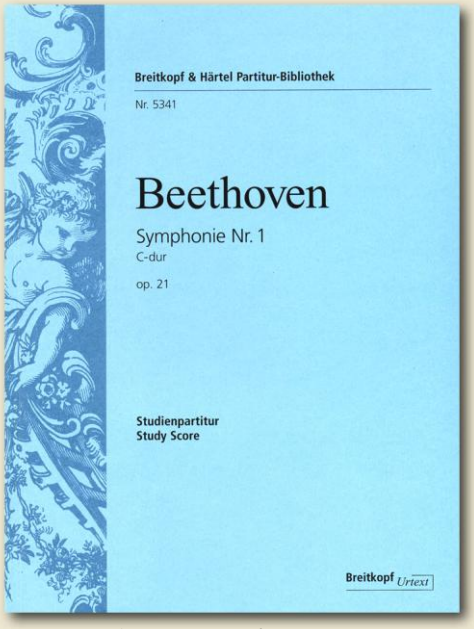
ヘンレ版（1995 年／アルミン・ラープ校訂）



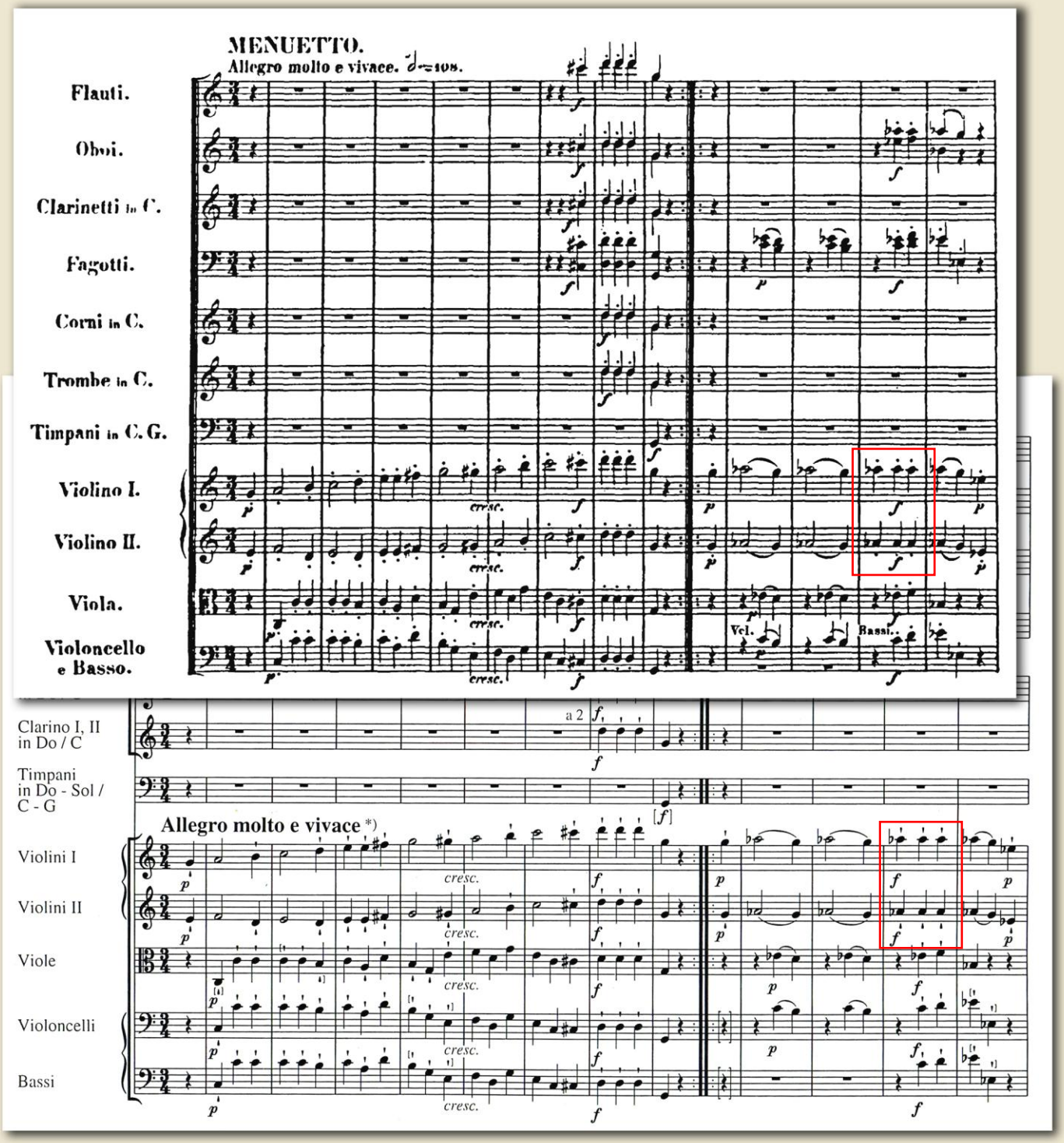
旧全集（1862 年／ブライトコプフ）



ベーレンライター版
（1997 年／ジョナサン・デル・マー校訂）



ブライトコプフ新版
（2004 年／クライヴ・ブラウン校訂）

ベートーヴェンの交響曲では、最近になって新しく校訂された楽譜（原典版）が何種類か出版されています。それらの楽譜では、今までの旧全集に準拠した楽譜では間違って印刷されていたと思われる多くの個所が、正しく訂正されています。その大部分は、聴いている分にはそれほどの違いはありませんが、中にははっきり異なっていて、場合によっては今までの曲の印象そのものが変わってしまう箇所もあります。

今回、定期演奏会で演奏することになったベートーヴェンの「交響曲第１番」でも、そのようなところがあります。それは、第３楽章の 11 小節目です。今までの楽譜では、ヴァイオリンの *f* が２拍目に付いていますが、新しい楽譜ではすべて１拍目に付いています。同じ原典版とは言っても、校訂者の判断によって結果が異なる場合もあるのですが、これはすべてのものに共通した訂正なので、今までのものが間違っていたのは明らかです。そのために、今までは２拍目にアクセントが感じられてシンコペーションのようになっていたものが、ごく普通のビートに感じられるようになりました。上が旧全集（ブライトコプフ）、下が新しい原典版（ベーレンライター版）の楽譜です。